

岩手県感染症週報

平成30年第36週(9月3日～9月9日)

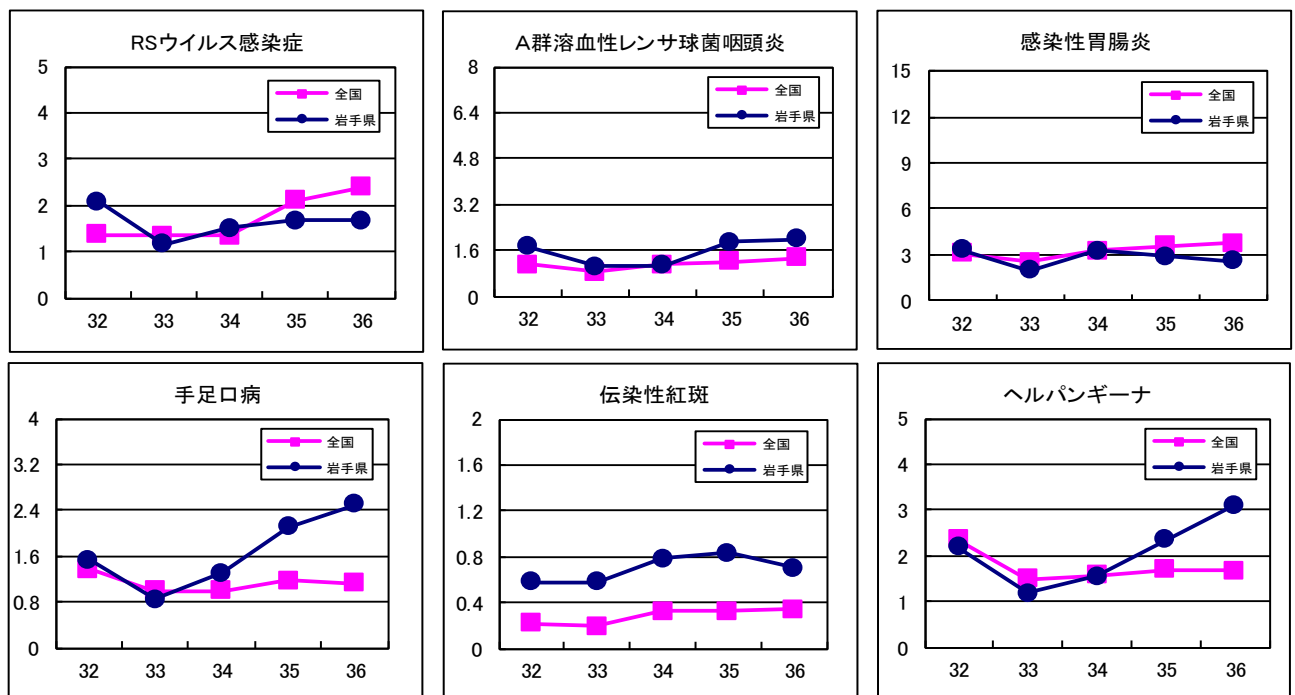
岩手県感染症情報センター

第36週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が4例ありました。そのうち1例は潜在性結核感染症でした。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症は、0157の報告が、盛岡市から1例ありました。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・アメーバ赤痢の報告が、奥州地区から1例ありました。患者は40歳代の男性です。
 - ・水痘 (入院例) の報告が、釜石地区から1例ありました。患者は50歳代の男性です。
 - ・梅毒の報告が2例ありました。今年これで25例です。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・ヘルパンギーナは多くの地区で増加し、県央及び宮古地区では警報値 (定点あたり患者数6人) を超えました。乳幼児を中心に流行する急性のウイルス性咽頭炎で、主な症状は38℃以上の突然の発熱とのどの痛み、口内に現れる小さな水疱性の発疹です。予防には、患者との濃厚接触を避け、十分な手洗いや排泄物の適切な処理を行うことが重要です。
 - ・手足口病は、県央地区で3週続けて警報値 (同5人) を超えています。ヘルパンギーナと同じエンテロウイルス属による感染症で、同様の対策が重要です。髄膜炎や脳炎などを併発する場合があります。頭痛、嘔吐、高熱が続く場合は医療機関の受診が勧められます。
 - ・RSウイルス感染症は、二戸、奥州地区で報告数が多い状況が続いています。乳幼児に多い急性の呼吸器感染症で、例年秋から冬にかけて流行します。咳やくしゃみ、ウイルスが付着した手指などを介して感染するため、咳エチケットや手洗いによる予防が重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		32	33	34	35	36		
インフルエンザ	岩手県	0	0.02	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.04	0.03	0.05	0.07		
RSウイルス感染症	岩手県	2.08	1.15	1.5	1.68	1.68	→	☆☆
	全国	1.37	1.34	1.34	2.11	2.39		
咽頭結膜熱	岩手県	0.38	0.13	0.28	0.2	0.15	→	☆
	全国	0.39	0.32	0.33	0.32	0.33		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.73	1.03	1.08	1.88	2	→	☆
	全国	1.1	0.83	1.11	1.2	1.32		
感染性胃腸炎	岩手県	3.28	1.93	3.23	2.85	2.55	→	☆
	全国	3.05	2.5	3.26	3.57	3.72		
水痘	岩手県	0.28	0.15	0.28	0.13	0.13	→	☆
	全国	0.2	0.2	0.23	0.18	0.22		
手足口病	岩手県	1.53	0.85	1.3	2.1	2.5	→	☆☆
	全国	1.37	1	0.99	1.17	1.13		
伝染性紅斑	岩手県	0.58	0.58	0.78	0.83	0.7	→	☆☆
	全国	0.22	0.19	0.32	0.32	0.34		
突発性発疹	岩手県	0.38	0.25	0.48	0.53	0.3	→	☆
	全国	0.39	0.34	0.45	0.49	0.49		
ヘルパンギーナ	岩手県	2.18	1.18	1.55	2.35	3.1	↗	☆☆
	全国	2.35	1.48	1.57	1.7	1.66		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.15	0	0.18	0.18	0.18	→	☆
	全国	0.12	0.12	0.14	0.13	0.12		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.29	0.64	0.5	0.43	→	☆
	全国	0.81	0.83	1.1	1.01	0.94		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.03	0.01	0.03	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.04	0.04	0.05	0.04	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.32	0.11	0.11	0.32	0.26	→	☆
	全国	0.23	0.27	0.21	0.23	0.23		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0	0.01	0.01	0		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0.01	0.01	0.02	0.02		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	1		
	全国	4	12	9	9	12		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		32	33	34	35	36		36	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	1 (1)	4 (1)	5 (2)	4 (2)	4 (1)	133 (55)	320	14725
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	114
	腸管出血性大腸菌感染症	6	7	4	6	1	53	141	2835
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	22
	バラチフス	0	0	0	0	0	0	1	15
	E型肝炎	0	0	0	0	0	3	9	302
四類 感染症	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	2	13	724
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	8
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	60
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	つつが虫病	0	0	0	0	0	1	1	98
	デング熱	0	0	0	0	0	0	8	119
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	9	174
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	3
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	2
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	34	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	7	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2	
レジオネラ症	0	1	0	0	0	7	42	1306	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	6	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 32	33	34	35	36	累計 36	累計	
五類 感染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	1	8	3	568
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	1	155
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	1	0	0	6	41	1357
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	2	32
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	2	3	495
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	2	4	145
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	6	10	494
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	1	0	3	12	896
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	54
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	1	0	2	4	340
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	28
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	13	17	2351
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	1	5	6	301
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	2	0	0	2	25	91	4675
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	2	130
	破傷風	0	0	0	0	0	1	3	82
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	0	0	0	1	1	51
百日咳	0	0	2	3	0	34	227	5933	
風しん	0	0	0	0	0	0	127	496	
麻しん	0	0	0	0	0	0	2	204	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	2	16	

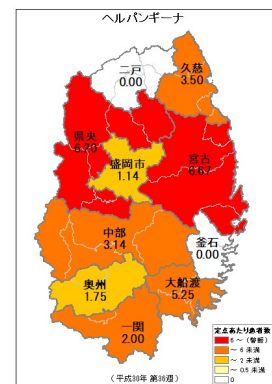
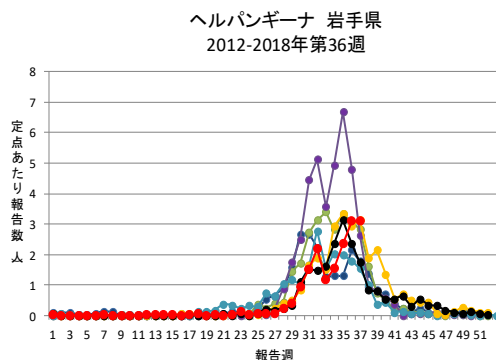
今注目の感染症

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する急性のウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的な疾患です。潜伏期間は2～4日で、主な症状は38℃以上の突然の発熱とどの痛み、口内に現れる小さな水疱性の発疹です。水疱はやがて破れて潰瘍になり痛みを伴います。痛みのため食欲が落ち、乳児の場合はミルクを飲むのを嫌がり、脱水症状を起こしやすくなります。まれに重症化し、髄膜炎や急性心筋炎などを併発する場合がありますので、発熱以外に頭痛や嘔吐、心不全の兆候が現れていないか注意が必要です。

第36週の定点あたり患者数は前週より増加し、3.10人となりました。感染経路は、患者の咳やくしゃみによる飛沫感染や、水疱内のウイルスに触れることで感染します。また、ウイルスは便の中にも排泄されるため、トイレに行ったときやおむつを交換する際に接触感染することもあります。予防には、患者との濃厚接触を避け、手洗いやうがいを行ふことが重要です。

参考 国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>



岩手県 第36週

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症（つづき）

梅毒

梅毒は、感染力が強い「梅毒トレポネーマ」という、らせん状の細菌によって引き起こされます。主に、感染している人の病変部（性器、口唇部、口腔内、肛門等）と直接接触する性行為や疑似性行為により「梅毒トレポネーマ」が粘膜や皮膚などの傷口から侵入して感染します。

感染後3週間程度の潜伏期の後に、感染部位にしこりや潰瘍がみられるようになりますが、数週間程度で症状がなくなります（早期顕症Ⅰ期）。その後、治療をせずに数週間～数カ月経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひらや足の裏、体全体に発疹がみられるようになります（早期顕症Ⅱ期）。さらに、感染後数年～数十年経過すると、ゴムのような腫瘍、心血管症状、神経症状などが出現する場合があります（晩期顕症）。妊娠している方が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡や奇形が起こることがあります。

早期顕症と晩期顕症の間には症状が消える無症候期がありますが、体内には梅毒トレポネーマが残っており、感染を広げる恐れがあります。この無症候期が診断・治療の遅れにつながるため、注意が必要です。また、終生免疫は得られないため、再感染する可能性があります。

全国では、2010年以降、報告数が増加傾向に転じています。男女の異性間性交渉での感染が増加しているほか、性風俗店利用者での梅毒の報告数が増加しています。岩手県では、例年、数例の報告でしたが、2016年に9例、2017年には16例の報告がありました。2018年は第36週までに、既に25例が報告されています。

梅毒は早期発見、早期検査、早期治療が重要です。感染が疑われる症状がみられた場合は、早めに医師の診断や治療を受けましょう。また、感染していたことがわかった場合は、周囲で感染の可能性のある方（パートナー等）と一緒に検査を行い、必要に応じて治療を行うことが重要です。

岩手県では、県内各保健所において、匿名、無料で梅毒検査を行っています。他の性感染症も含め、適切な予防対策を取り、症状がみられるなど不安がある場合には、検査や医療機関を受診するよう心がけましょう。

参考 国立感染症研究所 I A S R 2015年2月号

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/id/742-disease-based/ha/syphilis/idsc/iasr-topic/5404-tpc420-j.html>

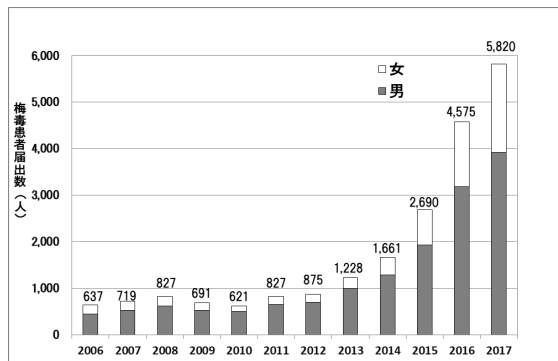


図1 全国における梅毒患者届出数の推移（2006年～2017年）

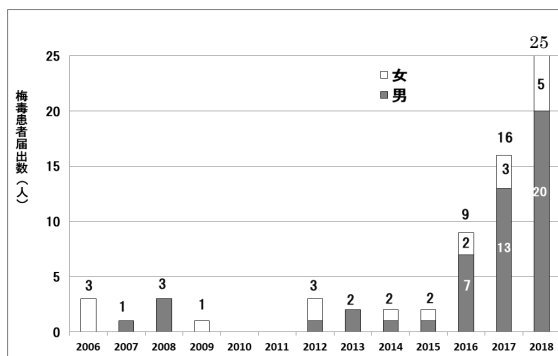


図2 岩手県における梅毒患者届出数の推移（2006年～2018年第36週）

今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Vero toxin = VT、またはShiga toxin =Stxとも呼ばれる) を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、著しい血便と様々です。さらに、溶血性尿毒症症候群による腎不全や脳症などの重篤な合併症を引き起こす場合もあります。

岩手県では、2018年第36週までに、盛岡市から22例、県央地区から10例、奥州地区から9例、中部地区から6例、一関、釜石及び二戸地区から各2例、計53例の報告がありました。原因となった大腸菌は、O26が28例、O157が13例、O111が4例、O103が3例、O121が1例、O8が1例、O血清型不明が3例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く12例、次いで10～19歳及び60～69歳が9例でした(図1)。

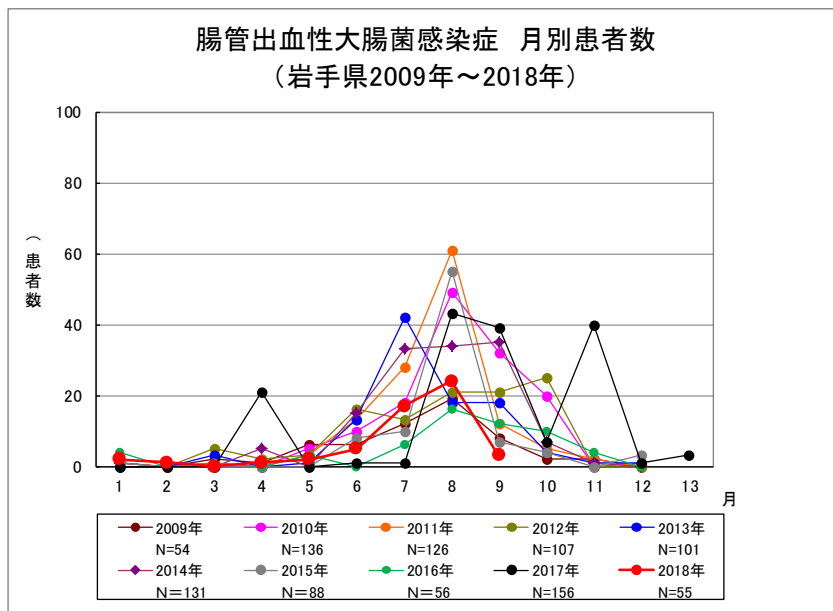
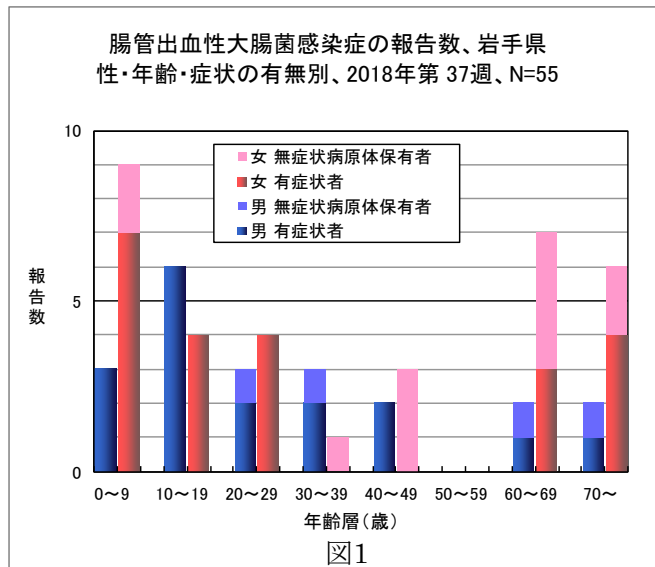
予防対策としては、食中毒予防の3原則 (食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける) を徹底し、生肉や加熱不十分な食肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、食事の前やトイレの後などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。

参考 国立感染症研究所

腸管出血性大腸菌感染症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>



腸管出血性大腸菌O157:H7の電子顕微鏡写真(15,000倍)
-国立感染症研究所HPより-



病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

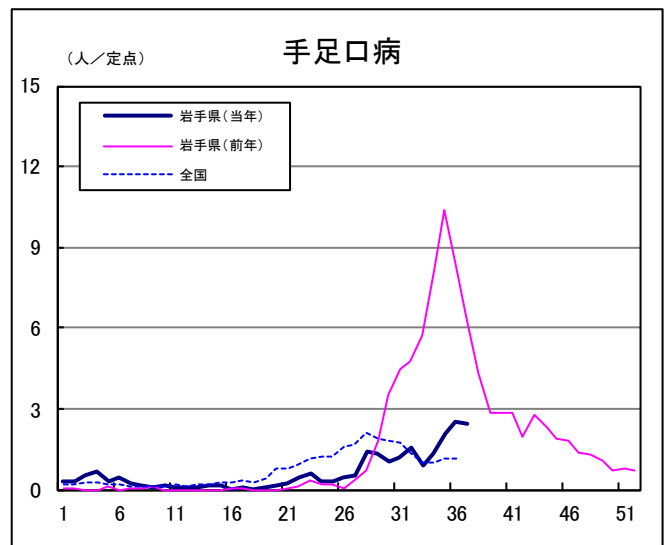
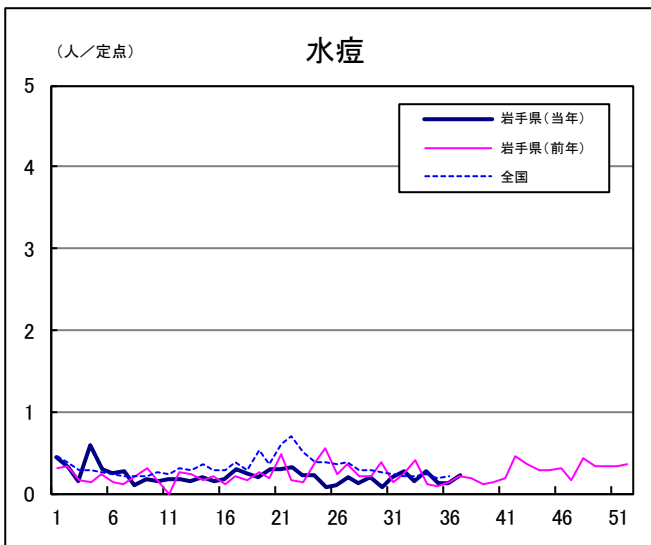
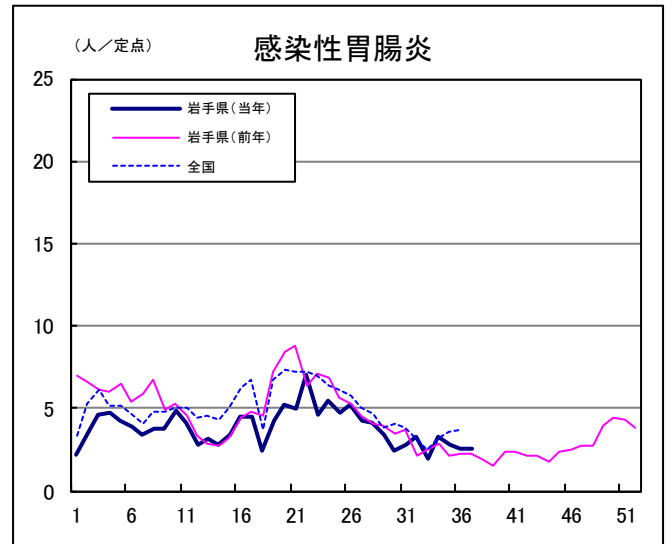
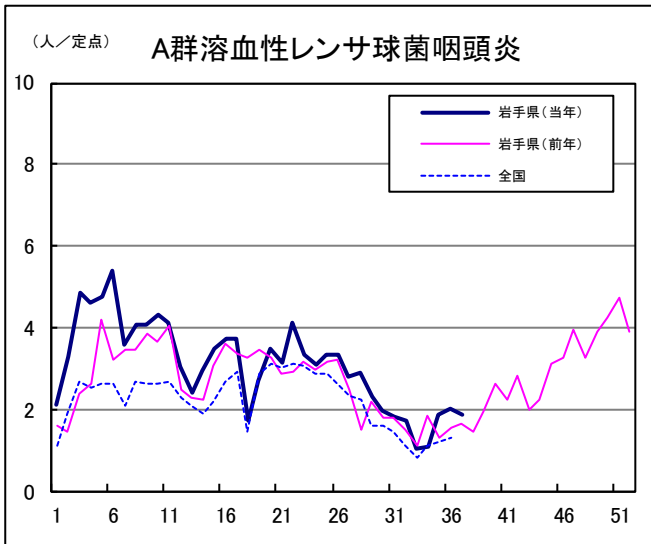
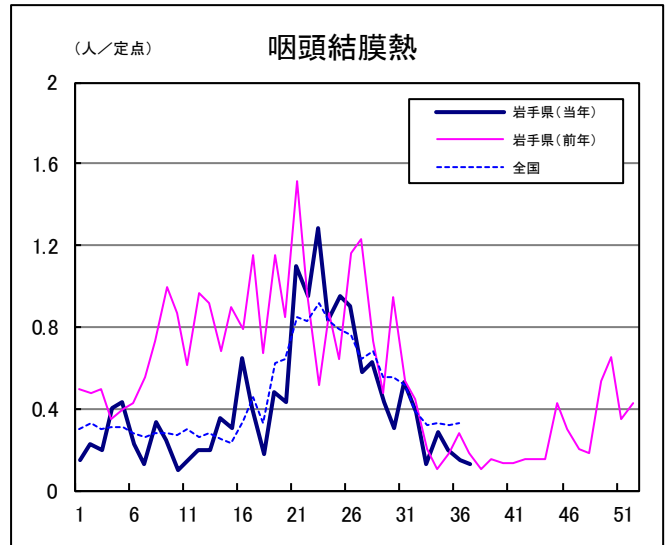
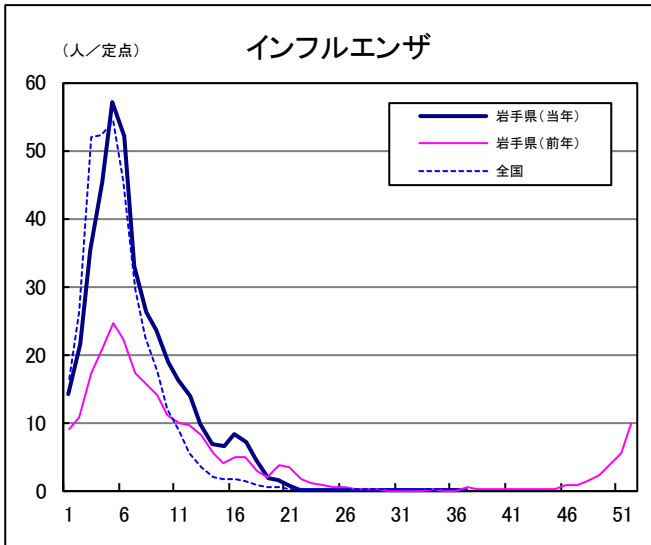
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

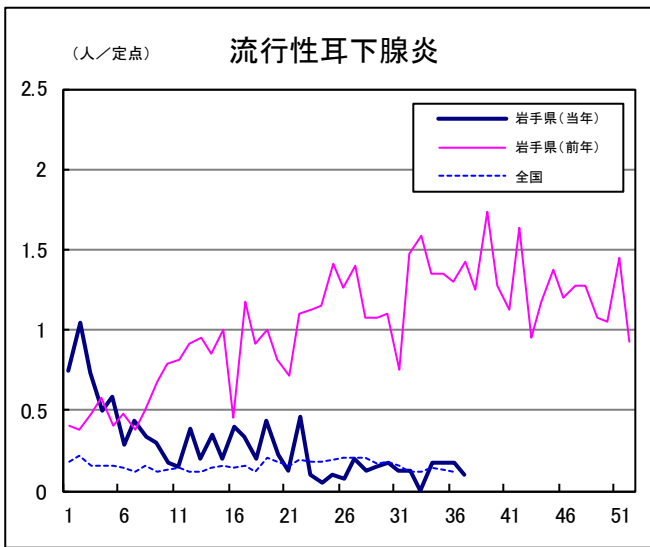
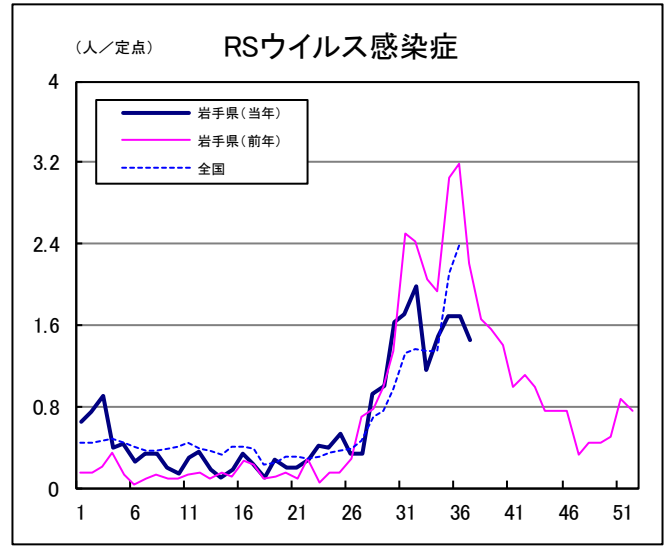
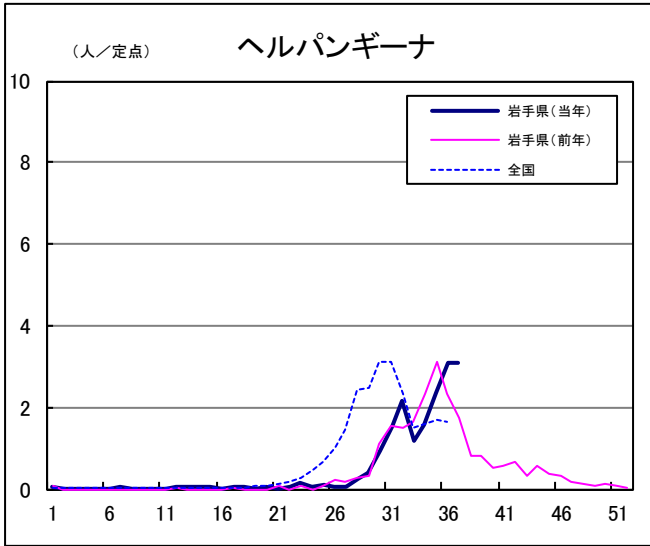
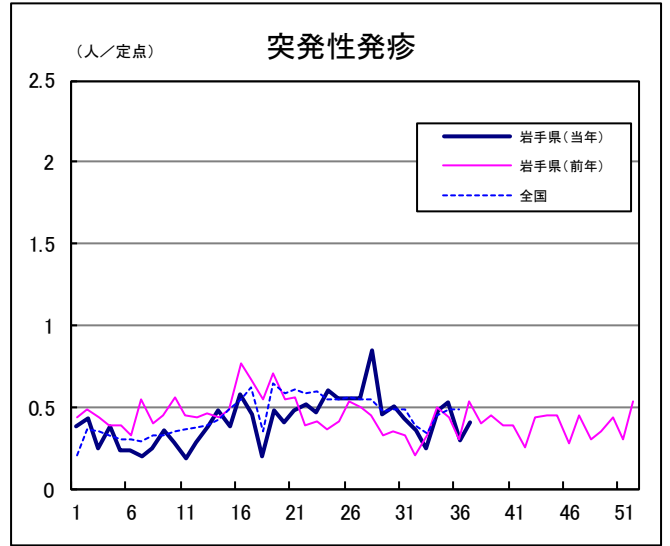
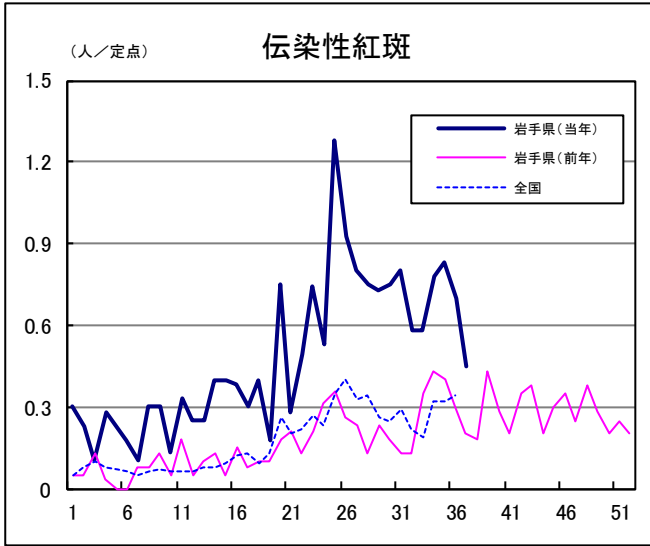
Q & A

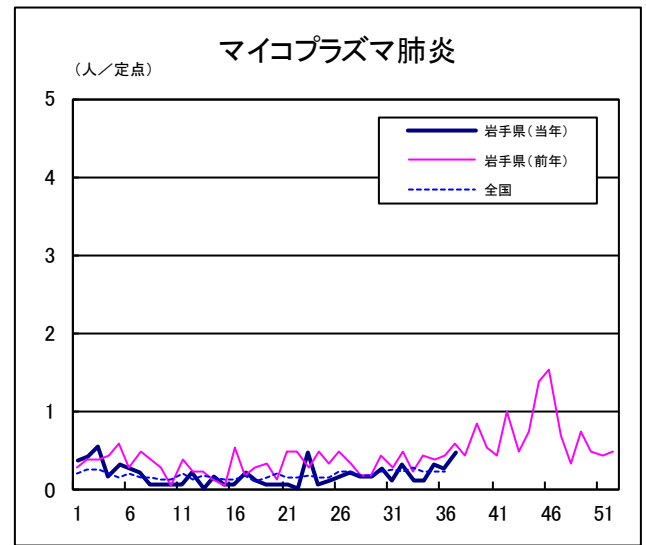
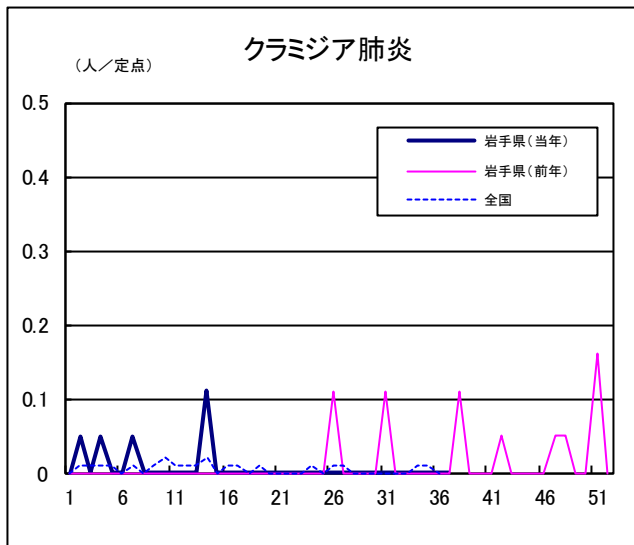
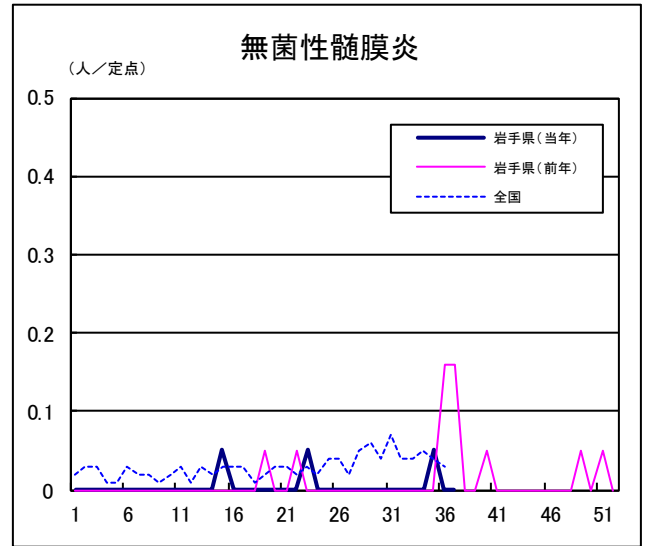
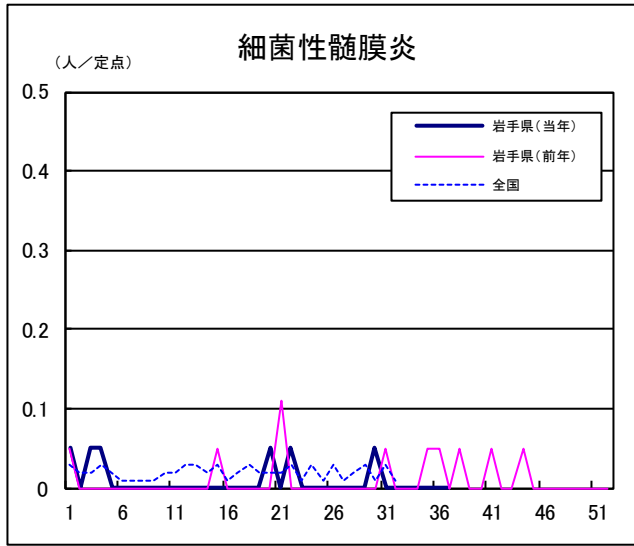
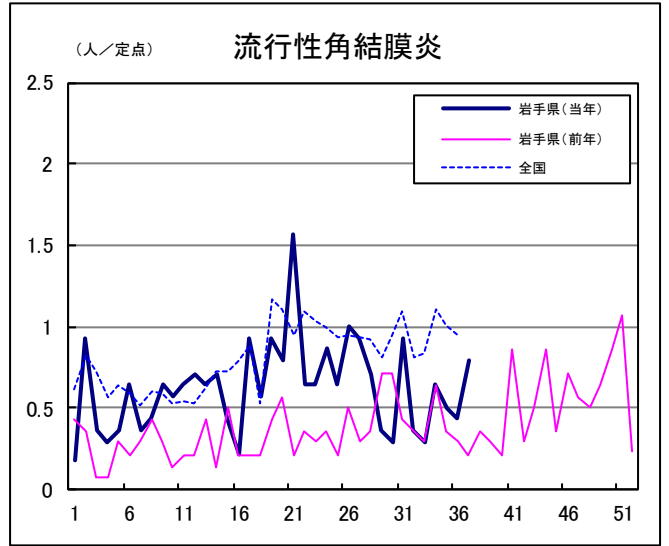
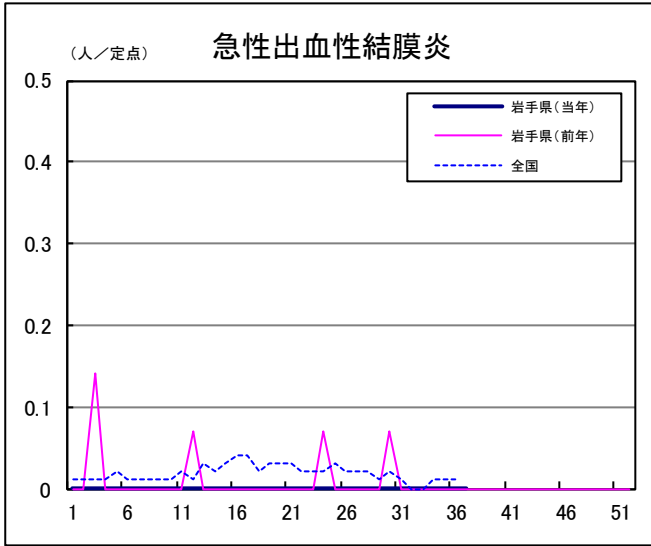
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成30年第36週 平成30年9月14日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>